

質 問 順 位	1 2	質 問 者	山 本 正 信 議員	
件 名	項 目	要 旨		メ モ
1. 農業行政	1. 米の作況と今後の対策について	1. 今年は、当初作況指数107の豊作の予想でした。しかし、稲刈り調整が進むと登熟不良により大量の青未熟粒が発生する事態となりました。現在のところ農協の米麦ばら調製施設、北の米蔵の製品歩留まりは85%前後と聞いております。例年ですと95～98%程度の製品歩留まりであり実質の作況は91程度にしかありません。また施設のくず米価格は低価格が予想され、今年の米価格の低迷と合わせて農家所得の減少は計り知れません。9月定例会でも清水議員から国に対する要望等の質問がありましたが、現在国も諸対策を検討中と聞いております。 さて、年末を迎え農家は12月末で一年の営農収支の締めを行うこととなっております。米作付農家のほとんどは赤字が予想されます。国ではセーフティーネットの担い手安定対策が発動となり青未熟発生 of 作況調整も行うと言っております。この制度自体が単純に5年間の内最高最低を除いた3年間の収入の平均を基準額とし、下落額の9割補填となっており、生産費補償の制度ではありません。 また交付される補填額の1/4は自分の拠出金であり、今年の低米価、低製品率の実態に対応できる制度ではありません。今後国では前倒しでならしの交付金予定額を無利子融資すると言っておりますが、さらなる対策・支援等の要請をするのか伺います。		
		2. 滝川市独自でつなぎ資金などの資金対応のお考えはあるのか伺います。		

質 問 順 位	1 2	質 問 者	山 本 正 信 議員	
件 名	項 目	要 旨		メ モ
	2. 新たな滝川農業の構築について	1. 今の滝川農業は規模拡大が進み土地利用型が主流となっています。一戸一戸の所得は確保されるかもしれませんが、農家戸数が激減し農村社会経済にボディーブローのように景気低迷の影響を与えています。規模拡大にも限界があります。一説には規模拡大・法人化により効率化で対応できると言われていますが、今年は米作で一番効率のよい15ha規模でも相当の赤字が見込まれます。 現在の農産物価格、そして国の農業政策が続く限り、規模拡大での所得確保は数年この状況が続くと大規模農家ほど収入減となり打撃が大きくなります。また、国では来年度以降は認定農業者についてのみ数量支払などの施策を集中すると言っておりますが、なお一層の農家戸数減少につながると思われます。平成25年第3回定例会で質問し、所得確保のため新たな滝川農業構築のための取組みを伺いましたが、その後の本市での検討施策等の進捗状況と併せて今後の農家戸数の減少を食い止める対策を考えているかを伺います。		
	3. 米穀調整施設（北の米蔵・ばら調製施設）の老朽化対策について	1. 平成25年第3回定例会において、施設の機器の老朽化対策についての答弁で農協と協議して進めたいとのことでしたが、その後の進捗状況を伺います。		